

事業所名	グループホームいつもえがおで (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成19年 1月26日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 デイサービスセンター管理者 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター、音楽療法士 B:現職 理学療法士 資格・経験 理学療法士、介護支援専門員、ガイドヘルパー講師
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

### 外部評価の結果

講評	全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国道30号線の片崎交差点より南西に3キロ程入ったのどかな田園地帯に、「グループホームいつもえがおで」がある。近くにあるファーマーズマーケットの風車が、のどかな田園地帯をより牧歌的に演出している。JR備前片岡駅までは、徒歩2分という位置である。</li> <li>・法人代表者は、「医療・保健・福祉を通じて地域社会に貢献する」という法人の理念を実現するべく、法人関連の知的障害者授産施設を備前片岡駅側に建設し、障害者福祉にも大いに寄与しており、総合的な福祉の町作りを目指している。</li> <li>・ホームの内部は、場所の混乱を防ぐような斜めの壁、気軽に調理をしたくなるようなアイランド型のキッチン等、認知症の緩和に効果のある空間環境を実現しており、記憶障害や見当識障害に様々な配慮がある。また、認知症の方をアルツハイマー型と脳血管性の方に分け、それぞれの特性を見極めた上での支援でより効果を高めている。</li> <li>・医療との関係の基盤は以前から出来ていたと思われるが、ターミナルケアへの要望も高まる中、今年度になり、更に訪問看護との医療連携を確立し、入居者や家族にとっての安心が高まった。ホームドクターでもある代表者は、毎日、ホームを訪ねて健康の確認を行っている。これは、異常の早期発見に止まらず、入居者や職員にとって、密にコミュニケーションを図れる機会ともなっている。</li> </ul>
	特に改善の余地があると思われる点(記述)
	特に無し
	介護マンパワーの確保、人材育成については熱意を持って当たられ、視点の高い指導力を誇っており、今後も、介護の質を維持・向上させ、地域福祉の発展に寄与されることを期待する。

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「医療・保健・福祉を通じて、質の高い医療ケアサービスを顧客に提供し、地域社会に貢献する役割を担う」という理念に基づいた熱い思いが、開設以来脈々と続いている。ケアの原則は、「自尊心と自信を高めるケア・最大限の自立を促すケア・五感を最大限に活用するケア・ストレスや不安、混乱を予防するケア・家族、地域との交流を促進するケア」である。</li> <li>・法人代表者は、人材育成について学問(勉強)が大切であるという信念で当たり、偉人の教訓や自らの訓示を掲げ、職員の指導・育成に熱意を持って取り組んでいる。</li> <li>・認知症がどのように重症になろうとも、その人らしく最期まで尊厳のある暮らしが営めるように、自らできないことに対しては、そっと陰より手を差し伸べる形で支援し、残された力で暮らしの喜びと自信を取り戻すことが出来ればと考えている。</li> </ul>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つあるユニットを、「アルツハイマー型の方」と「脳血管性の方」とに分け、その特性に応じた比類無いハード面での対応やソフト面での関わりをし、効果を上げている。また、それぞれのユニット間での交流もあり、会うのを楽しみにされている方もいる。</li> <li>・以前の生活そのままの居室は、それぞれの方が生きてこられた生活史そのもので、元氣だった頃を彷彿とさせる。その空間は、一人ひとりが自分らしく過ごせる場所となっている。</li> <li>・ケア面において、ジェントル・ティーチングを援助の基本とし、全人的なケアを実践している。常に尊敬の念を持ち、尊厳のある暮らしを支えていく努力がなされている。</li> <li>・医療との密接な連携によるターミナルケアへの取り組みは以前から始まっていたが、「医療連携」に即応して訪問看護との連携も確立し、本人、家族の安心感がより高まった感がある。また、「看取り」についても家族に説明し、理解をいただいている。</li> </ul>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人であることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者の中には身寄りのない方もあり、「成年後見制度」を利用されている方もいる。その方にとってのホームは、家庭そのものになっている。</li> <li>・居室内には、以前の生活そのままに様々なものが持込まれている。居室に入ると、それぞれの方の世界が広がっており、自分らしく振舞える自分だけの空間がある。</li> <li>・斜めの壁から作り出される空間には、サブリングがあり、一角一角に落ち着ける雰囲気がある。気の合う人とおしゃべりや、家族との暮らしに最適なおせみプライベートな場所となっている。</li> <li>・認知症があっても、これまで情熱を注いで来られた技術や経験を生かし、楽しみとなるように支援している。</li> </ul>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SMC委員会(専門的な研修を置ながらリスクマネージメントを考える委員会)があり、ヒヤリハット事例や事故報告事例について、再発防止に向けてのより専門的な取り組みがある。</li> <li>・施設内研修では、各部署ごとの事例研究発表会があり、より良いケアの提供に向けての自己研鑽の場がある。</li> <li>・他のグループホームとの交流も兼ねて、互いの介護現場の評価をし合い、研鑽を積み取り取り組みがある。</li> <li>・管理者は、常に職員の育成やケアの質を高めるため、職員とのミーティングや指導を重ねている。このホームで共に生活をしながら、たくさん思い出を重ねていくことの素晴らしさを共感し、全職員が前向きに「今」という時を大切にしていきたいと願っている。</li> </ul>		